

現研 第407回新経営具体化研究会

創造を生むオフィスのつくり方

■ 講 師 桑原晃弥氏

経済・経営ジャーナリスト

● 日 時 2021年11月26日(金) 15:00~17:00

● 開催方式 Zoomによるオンライン開催

※ 当研究会は講演形式を基本としながらも、参加者の疑問点や問題提起に応える質疑応答を重視して進めます。

<プログラム>

I. コロナ・テレワーク後のオフィスを考える

- テレワークから社員たちが戻って感じるオフィスの違和感とは
 - 画一否定、多様性称賛だけでは足りない何か
 - チームワークの新しいかたちを探して
- 他

II. 創造を生むオフィス…日米モデルの検討

- ゲーグル…自由なキャンパスが育む創意
 - ピクサー…アップルよりもジョブズなオフィス
 - ジンズ…「集中」を科学するThink Labの展開
 - ユーザーベース…共通の価値観が形になったオフィス
- 他

III. 創造を生むオフィスのつくり方—その条件とは

- 高密度なチームコミュニケーション
 - 完全なる集中の場の確保
 - 開かれた場での自由な交流
- 他

IV. 質疑応答

■ 講師プロフィール

桑原晃弥(くわばらてるや)氏

経済・経営ジャーナリスト。慶應義塾大学卒。業界紙記者などを経てフリージャーナリストとして独立。トヨタ式の普及で有名な若松義人氏の会社の顧問として、トヨタ式の実践現場や、大野耐一氏直系のトヨタマンを幅広く取材、トヨタ式の書籍やテキストなどの制作を主導した。一方でスティーブ・ジョブズやジェフ・ベゾスなどのIT企業の創業者や、本田宗一郎、松下幸之助など成功した起業家の研究をライフワークとし、人材育成から成功法まで鋭い発信を続けている。著書に『スティーブ・ジョブズ名語録』(PHP研究所)、『トヨタ式「すぐやる人」になれる8つのすごい！仕事術』(笠倉出版社)、『ウォーレン・バフェット巨富を生み出す7つの法則』(朝日新聞出版)、『トヨタ式5W1H思考』(KADOKAWA)、『1分間アドラー』(SBクリエイティブ)、『Amazonの哲学』『トヨタはどう勝ち残るか』(大和文庫)、『仕事の効率を上げミスを防ぐ整理・整頓100の法則』(日本能率協会マネジメントセンター)、『世界最強の現場力を学ぶ トヨタのPDCA』(ビジネス教育出版社)、『イノベーションを起こすジェフ・ベゾスの言葉』(リベラル社)などがある。

ご参加をお勧めします

第406回に引き続き、今回も講師に桑原晃弥氏をお迎えし、「創造を生むオフィスのつくり方」と題し、ウイズ・コロナ、アフター・コロナ時代のオフィスの新しいかたちを検討します。

桑原晃弥氏は、第406回の当研究会において「創造を生む現場の働き方」の実例として、アップル、グーグル、アマゾン、トヨタの4社を比較分析し、それぞれの流儀とその獨創性を鮮やかに浮き上がらせて大好評を博しました。今回は新時代の「オフィスのつくり方」の視点から照射して「創造を生む現場」を描き出して頂きます。

「現在、コロナ禍でテレワークを経験した社員と会社がオフィスで向き合う時、従来型のマネジメントやチームワークの在り方を継続することに違和感が広がっている。一方で、過去10年間、「画一性を脱して多様性へ」という流れで進んできたオフィス改革もそれ一辺倒ではうまくいかないだろう」と氏は指摘します。

氏が取材、研究調査してきた日米4社を比較分析してオフィスと創造の関係性を解明すると共に、創造を生むオフィスのつくり方を提言して頂きます。

ご参加をお勧めします。

現研所長 大槻 裕志